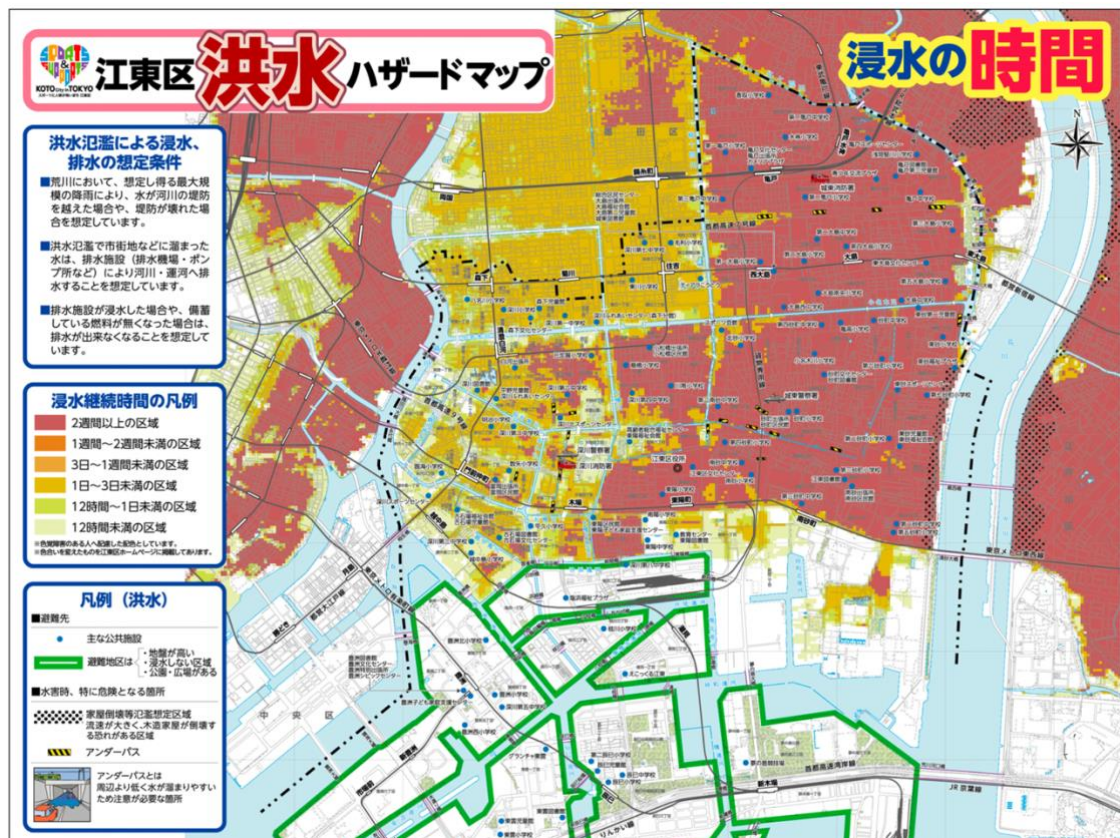


ハザードマップの見方① 浸水継続時間

- 一回目のアンケート調査で、「ハザードマップをよく知っている・知っている・見たことがある」と回答した人は 262 人中 232 人に上りました。
- ハザードマップでは水害が発生した場合の浸水範囲や水の高さが注目されますが、もう一つ重要な要素として、**浸水継続時間**（どの程度の期間、水に浸かった状態が続くか）があります。
- 例えば[江東区の洪水ハザードマップ](#)で荒川が氾濫した際の浸水継続時間を見ると、浸水する大部分の地域で 3 日間以上、一部地域で 2 週間以上の浸水が予想されています。



- 浸水継続時間の長い地域では、自宅の上層階や浸水地域内の避難所に避難して難を逃れたとしても、**浸水した地域では電気・水道・ガスの供給が停止する可能性があり、台風通過後の酷暑の中、劣悪な環境で何日も過ごす必要があります。特に都市部では膨大な数の人が浸水地域に取り残されるため、救助はすぐには来ないと考えてください。**

災害後の状況

なかなか復旧しないライフライン

ライフライン（電話、電気、ガス、上下水道など）の復旧に時間がかかることが予想されています。特に電気が長期にわたり使えなくなることが予想されています。



いつまでも水に浸かる江東区

想定される最大規模の洪水氾濫もしくは、高潮氾濫が発生した場合、江東区は荒川や東京湾の水位よりも低い地域が多いため浸水している期間が長期化します。

自宅に残った場合、その後の生活が困難となります。早めの避難を心がけてください。

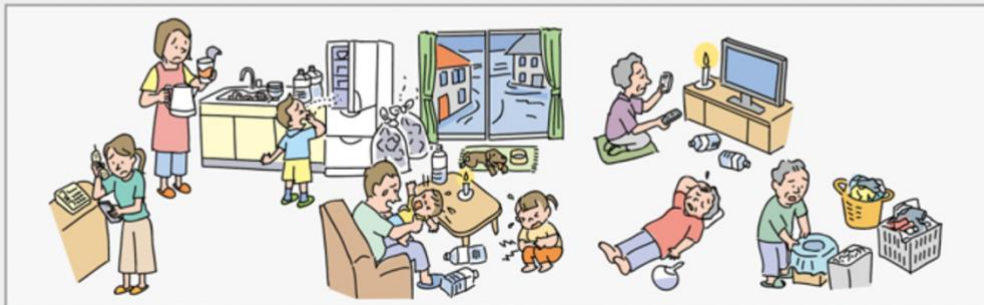


洪水氾濫の浸水継続時間が2週間以上の区域

避難生活の長期化

浸水が長期化する地域では、たとえ高層階にお住まいの場合であっても、その場所に留まって避難生活を続けることが困難となります。

浸水が長期化することにより、避難場所からしばらくの間自宅に戻れない事態が考えられます。非常用持出品（貴重品や生活用品など）は普段から身近に置き、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。



- 実際に 2019 年の台風第 15 号では、千葉県の高齢者施設において停電により冷房が使えなくなり、熱中症で 11 人の入所者が発熱し、一人が死亡しました。

千葉停電、熱中症の死者 3 人目「電源車が来ていれば…」

台風 15 号支援通信

寺崎省子 2019年9月14日 1時44分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷

[list](#) 27



千葉県は13日、同県君津市の特別養護老人ホーム「夢の郷」（定員80人）の入所者の女性（82）が12日朝、搬送先の病院で死亡したと発表した。熱中症などの疑いで治療中だった。台風15号による停電で、この特養では9日早朝から冷房が使えなくなっていた。台風の通過後、県が把握した熱中症とみられる症状の死者は3人目。

39度近い熱が出て、救急搬送される入所者の女性。翌日、搬送先の病院で亡くなった＝2019

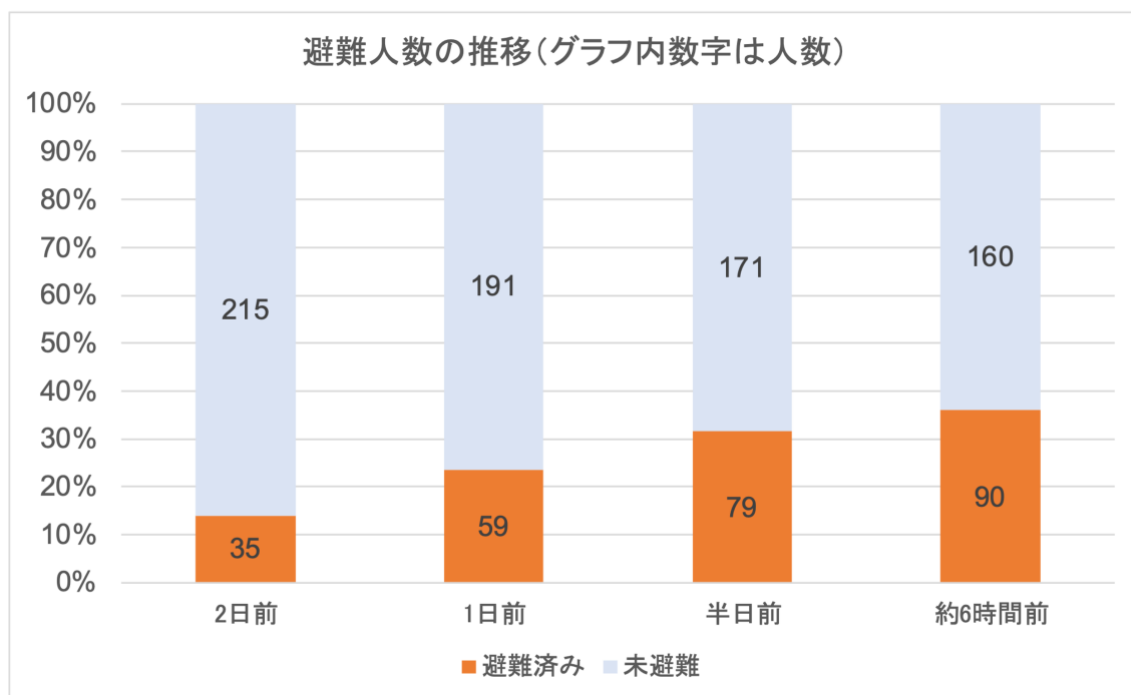
<https://www.asahi.com/articles/ASM9F6R9XM9FUDCB01W.html>

- 避難するかどうか決定する際に、水害発生時に自宅が浸水するだけでなく、**水害が発生した後の過酷な状況下で何日間耐える必要があるか**を、ハザードマップを見て想定しておく必要があります。
- お住まいの地域のハザードマップは「〇〇市 洪水 ハザードマップ」などと検索すると見つかります。

前回のアンケート調査の結果

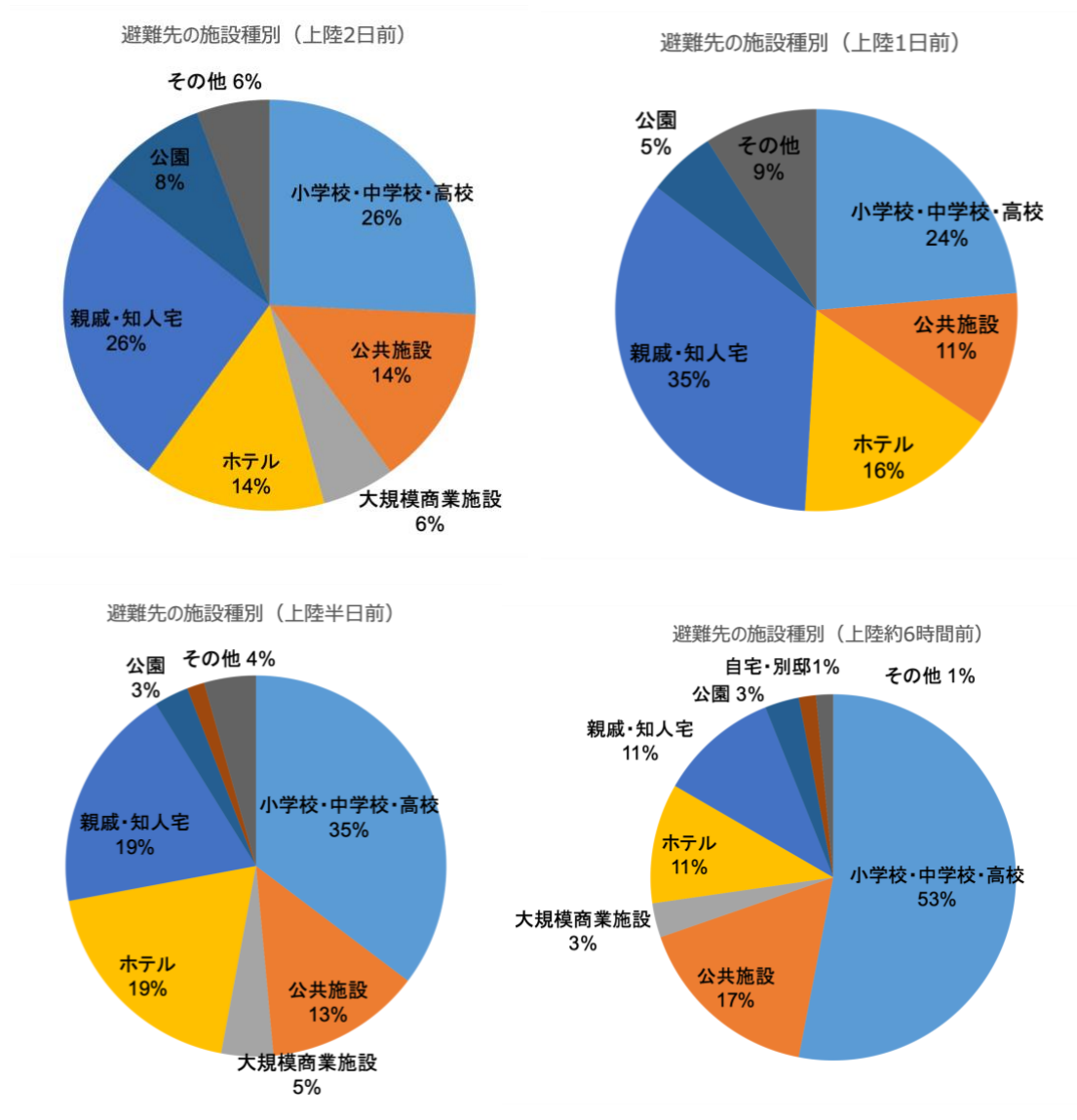
- 3月25日から29日に参加者の皆さま250名に回答いただいたアンケート調査の集計結果を紹介します。
- アンケートでは、史上最大級の台風が接近している状況を想定し、台風上陸の2日前、1日前、半日前、10～12時間前、約6時間前に避難するかをお聞きしました。
- 実験の設定上、全ての回答結果をお示ししない場合がありますがご了承ください。

各時間で「避難する」と回答した人数の推移



- 2回目のアンケート調査と比べ、「避難する」と回答した人が各時点において数名程度増加しました。
- 避難しない理由として 1 回目のアンケートから増加したものは、
2 日前：「災害発生する確率が低いと考えられる」
半日前：「仕事がある」「交通手段がない」「避難先が混んでいる」
が多く、災害の発生確率と自分の生活を照らし合わせながら避難行動を選択していました。

避難先の施設の種類



2 回目のアンケート調査から変化があった点は、

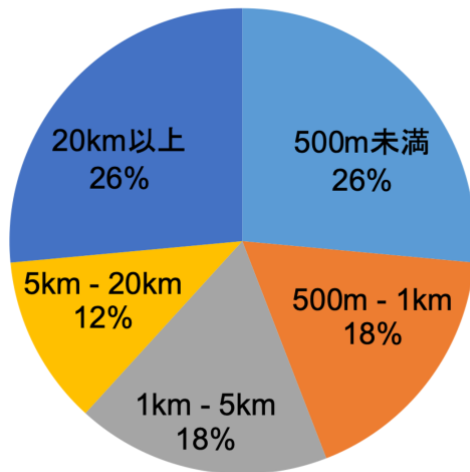
- 上陸 2 日前の時点で親戚・知人宅、ホテルを選ぶ人の割合が 10% 程度増加
 - 上陸半日前・6 時間前では小学校やホテルを選ぶ人の割合が増加
- 台風上陸までのタイムリミットを考えながら避難先を時々刻々と変

化させていることがわかります。

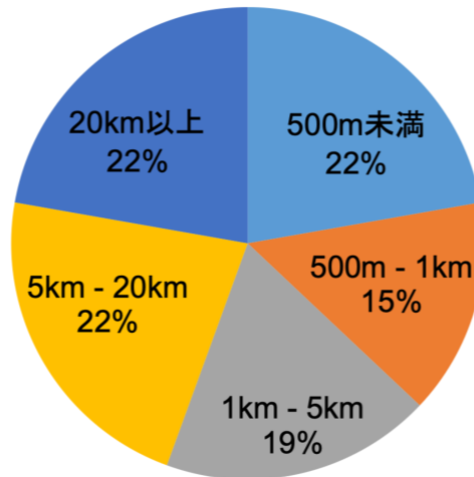
避難先までの距離

※事前に伺っていた住所とアンケート回答結果からおおよその距離を算出しました。

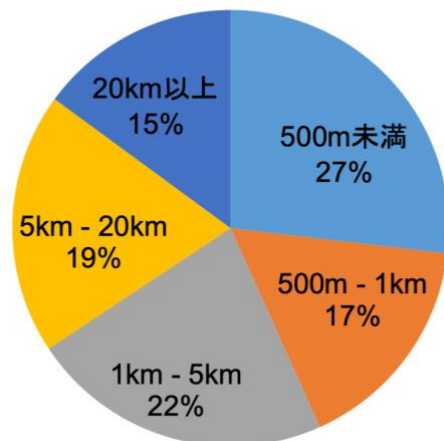
避難先の自宅からの距離（上陸2日前）



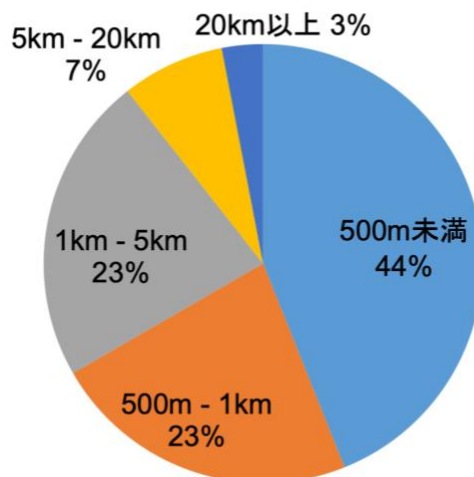
避難先の自宅からの距離（上陸1日前）



避難先の自宅からの距離（上陸半日前）



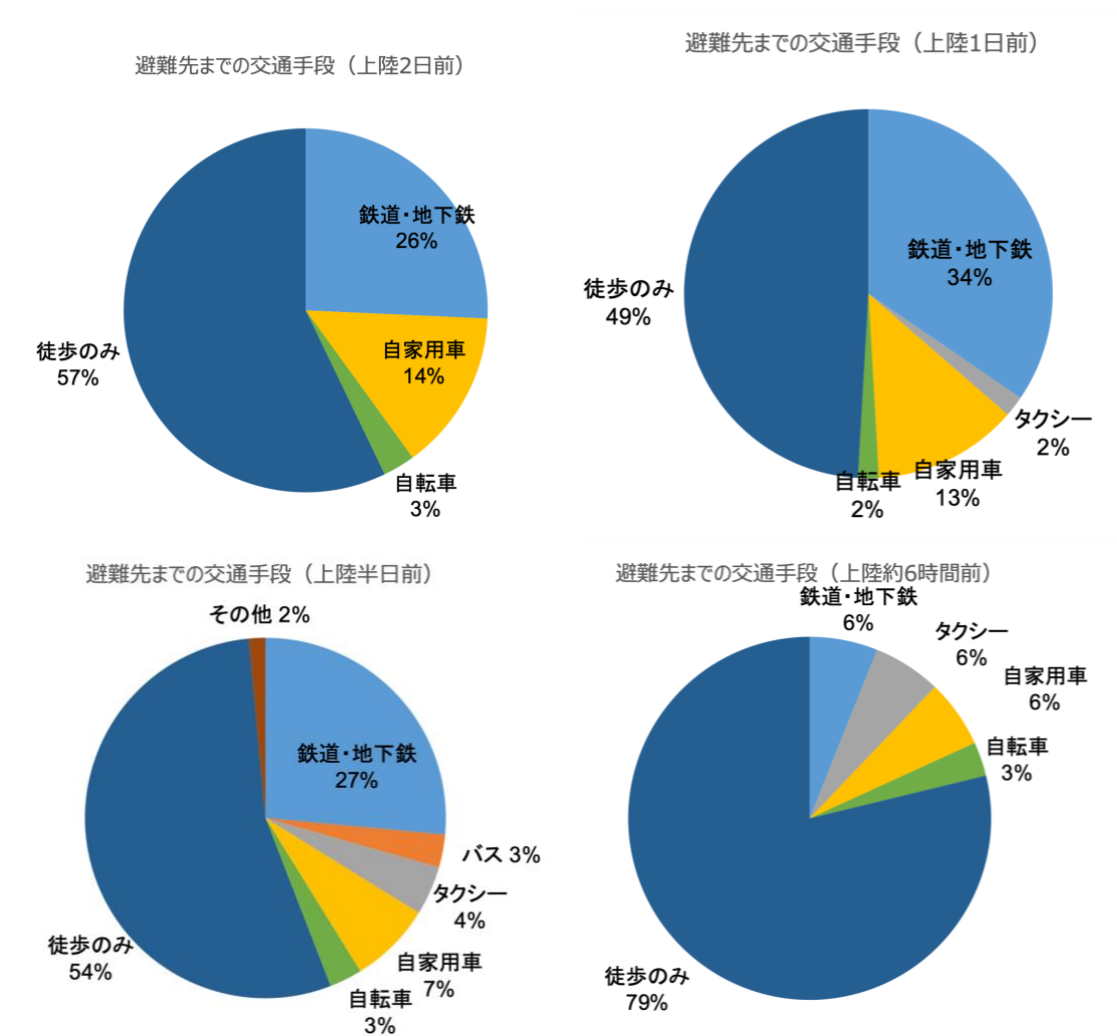
避難先の自宅からの距離（上陸約6時間前）



- 台風上陸2日前に自宅から1km以内の避難先を選ぶ人が8%増加
- 台風上陸6時間前には自宅から500km以内の近場を避難先を選ぶ人が8%増加。

- それでも上陸当日は 1km 以内の避難所を選ぶ人が半分以上を占め、**自宅近くの避難所には多くの人が詰めかけると予想**されます。

避難先までの交通手段



- 半日前から 6 時間前にかけて自家用車を選択する人が減少し、その分鉄道や徒歩を選択する人が増加しました。
- 前回のアンケート結果を踏まえて、川を渡る橋や高速道路入り口などでの渋滞を見越して避難行動を変化させたと考えられます。

今回の配信資料は以上です。

最終のアンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

なおアンケートの回答は、お住まいの市区町村における状況を想像して回答をお願いいたします。「もし江東区に住んでいたら～」と想像する必要はありません。